



FOCUS OF YANAKA ~Genius・Localityに挑む~

K01064 鈴木 剛

■目的

対象敷地である谷中霊園は日暮里駅西側の線路沿いより谷中市街地に広がる約10万㎡を持つ広大な敷地であり、中央部の桜並木を中心に住民（谷中側の老人）の憩いの場となっている。しかし上野から続く高台の地形形状のため日暮里側からは閉ざされた空間となっており、面的、重層的に江戸のなごりを継承している谷中へのアクセスも閉ざされたものとなっている。

本計画は谷中の象徴である谷中霊園を媒体とした公園計画であり、下町情緒あふれる谷中という町並みに付加価値を創造しようというものである。

■敷地

敷地に関しては元々の断崖状の地形、天王等の寺院、既存墓地など敷地的制約が非常に厳しい。しかし谷中の集合体を計画するにあたって、駅の目の前、墓地内、現在の憩いの場の桜並木、日暮里側からの視界的認知のできる点などの要素からこの地に計画することが最も望ましいと考えた。



■土地の精霊

谷中へのアクセスの始点となる日暮里駅西側は東口から約15メートル高台にあり、そこに新しい概念の流入を防ぐかのように谷中霊園がそびえる。付近にはお寺を中心とした下町情緒あふれるヒューマンスケールを保持した建築物が立ち並んでおり、あたかも街全体がこの地への開発を拒絶しているような形態をとっている。

■問題提起

1) 都市要素

谷中は現在日本では数少ない寺町であり、近代化の進む日本にとって貴重な都市形成の解答である。一見付近には文化施設や大学もあり多年代が行きかう町のように思えるが、真実はその個々が単体として成立してしまっている町なのである。つまり多年代が存在しながら、多年代の交流という概念が欠如しているのである。この事実は谷中の人間性豊かな伝統がうまく若年層に伝わらない危険性があり、このことは今日の日本全体の問題であるのではないかと。

2) 本来の霊園の姿

墓地とは、本来、土に還る場所という意味を持ち、人を根底から支える場所ではなくてはならないのではないかと。だからこそ、ヨーロッパ諸国をはじめ、アジア、アフリカにおいても墓地は地域コミュニティの中核となっているのである。古代の日本であってそうであったはずである。ところが近代の日本においては、すべてに合理性を優先するあまり、死を忌むべきものとする風潮が支配的であり、墓地は物理的にも精神的にも片隅に追いやられてきた。また墓地とは魂が眠る場所であり誰もが手を加えるのを躊躇う場である。確かに歴史的文化は現存のまま残し、後世へ歴史的財産の継承を図ればリスクも少なくある種の都市のあり方としての模範解答となるだろう。しかし過去の風習に囚われて手を加えるのを恐れていたなら新しい魅力は生まれないのではないかと。

3) 近代開発

現代社会の開発事業とはすべてとていついほど縦の軸を意識し、高層化することによって商業的スペースを確保し、営利目的のために造られる巨大複合施設ばかりである。しかし本当に必要な開発のあり方は、その土地に最も必要、かつ地域の特性を生かした施設ではないのか。確かに現代社会は便利になったがどの町も地域の色

を殺しているように思える。このままいくとこのような複合施設は必ず飽和状態に達するであろう。

5) 動線解決

現在谷中霊園（谷中中心地）への主要アクセスは日暮里駅南口の小さな暗い階段であり、この要素が与える動線的影响はこの町を活性する上でかなり大きなウェイトをしめている。よって谷中の象徴である霊園内の桜並木が視界的にオープンとなるアクセス要素が必要である。

6) 周辺の公園

谷中周辺にはいくつか公園のようなものが点在するがどの公園も残余空間に作られたものや、歴史的建造物の跡地にあるものなど、すべて日の当たらない小さな公園が多く地域の憩いの場として成立しているとはいえない現状がある。

■計画の概要

前頁の問題提起よりこの地に最も必要なのは、若年層と年輩層が個々によって成立してしまう谷中の文化を集積する大空間の公園が必要であると考えた。この公園計画内にコミュニティスペースを配置することによって若年層と年輩層が触れ合い文化の継承を図るとともに、都民の憩いの場となるだろう。

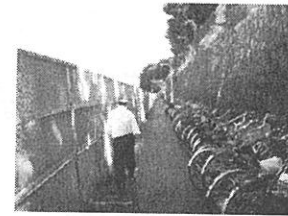
■公園内のコンセプトと諸機能

- ・長い間開発を逃れてきたため生き残っている大量の自然を生かした公園空間
- ・内部と外部の境界線を感じさせない空間
- ・霊園内の桜並木への魅力的なアクセス且つ谷中への明瞭化された動線の配慮
- ・R曲線によって空間同士を滑らかにつなぐ

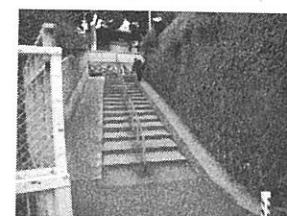
内部施設

- ・情報兼図書スペース
- ・レクチャールーム
- ・公演ルーム
- ・多目的ルーム
- ・カフェ
- ・託児所
- ・展示室
- ・残余空間が触れ合いの場となる

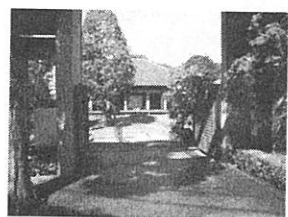
■現状の様子



霊園直下の通路・自転車置き場となり魅力なし



南口より霊園入り口・ここより桜並木につながる



桜並木の始点に位置する天王寺 場所的にかなり制約与える



桜並木・春夏秋冬を感じれる霊園の核 歩道に改修加えれば更に良し



桜並木中部に位置する五十の塔跡地 少々寂れた公園となっている



霊園内・緑が大量にあり死の臭い少なし



谷中銀座・下町情緒溢れる温かい商店街・営業的に谷中活性化に期待している

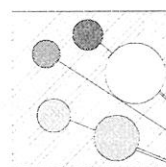


日暮里東口・この奥に再開発行われ、近代化が推進される

why I create this plan

to connect private aspects

谷中の都市形態



public

自然、歴史的町並みという要素を持ち
合わせながらprivateをつなげる役目を
果たしていない

private

谷中の都市空間は個人（各年代の1グループ）
が個々に成立してしまっている

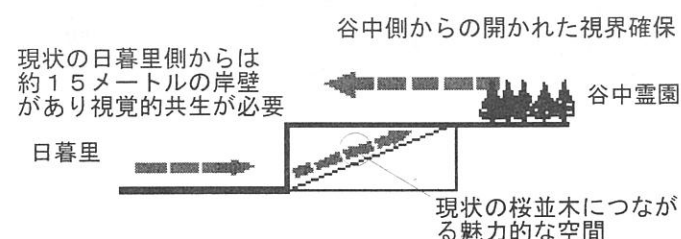
privateをつなげる空間が必要

community park

why I create this form

from original characteristic of site

outside concept



inside concept

谷中のprivateは周囲との完結性が強い
その意図を円というダイアグラムで
表現することができる



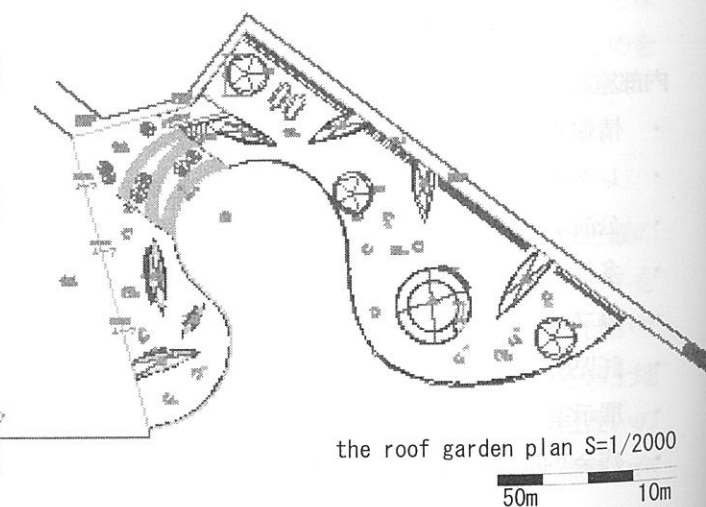
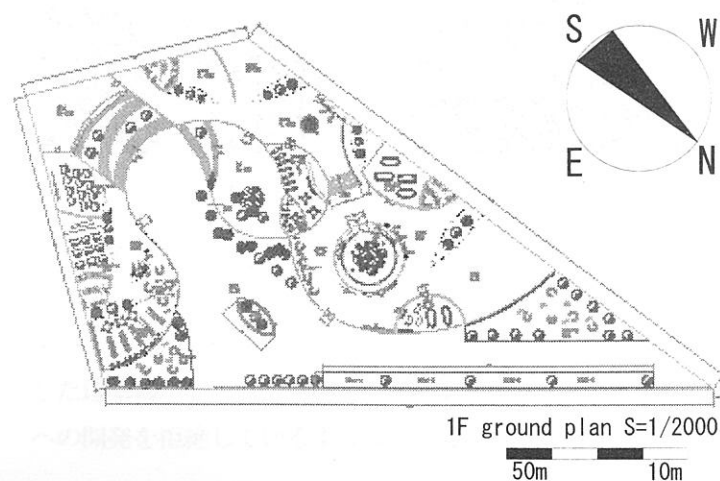
continuation



conclusion

円は周囲を滑らかにつなぎ空間的な連続性を生む一方
完結性が強いために空間内部は孤立してしまう

the answer of this site

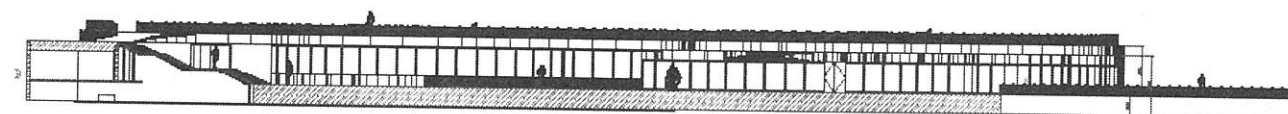


elevationA S=1/1000

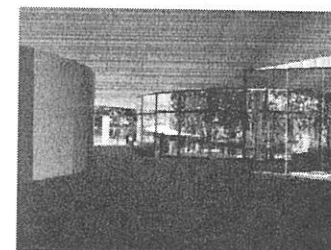


30m 10m

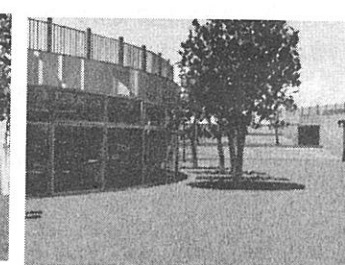
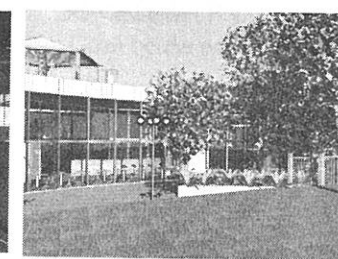
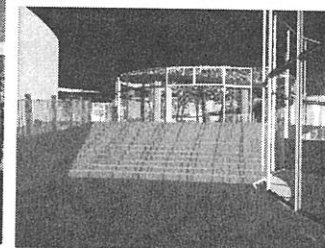
elevationB S=1/1000



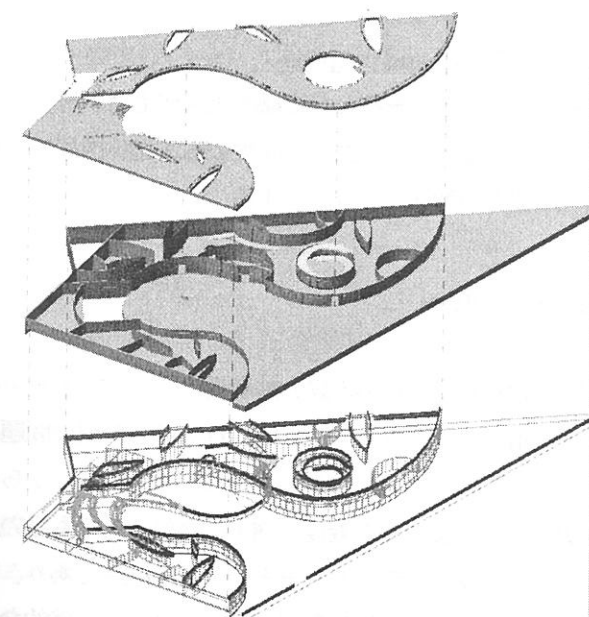
interior perspective



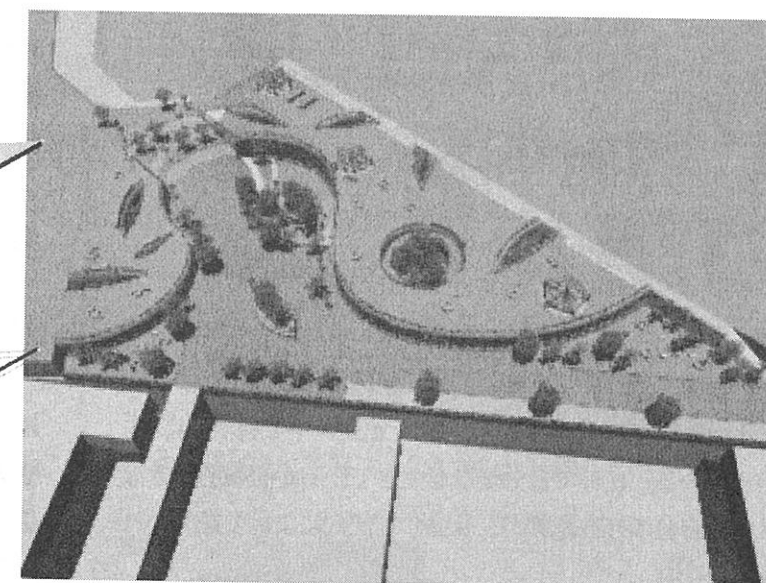
exterior perspective



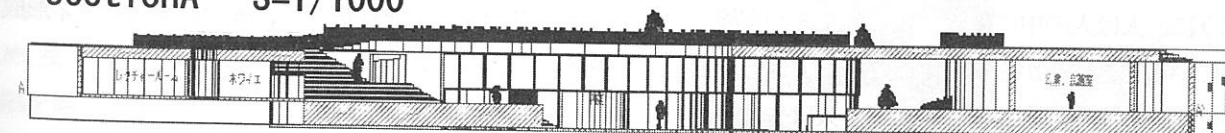
summary of plan



a bird's-eye view



sectionA S=1/1000



sectionB S=1/1000



30m 10m